



井草八幡宮の参道に咲く桜は、 毎年お参りする人々の目を楽しませてくれる。 桜を植えるようになった経緯や管理について、 宮司さんにお話を伺った。

宮崎昌文さん 井草八幡宮・宮司

井草八幡宮：武蔵野の面影残す善福寺池のそばに建ち、古地名を冠して「遅の井八幡宮」とも呼ばれた井草八幡宮は、源頼朝が奥州征伐の道すがら戦勝を祈願したと伝えられている。

■桜の木を植えるきっかけ



▲井草八幡宮大鳥居

残っている記録を調べてみましたが、大正4年に大正天皇即位に関する記念事業があり、その際、参道沿いの車道の設置や第二鳥居の新設、その他鳥居に額を備えたり、ヒノキの苗を植えたりしたそうです。

このときに氏子の方々から、650本20種類の多大な献木をいただいています。それまでは杉と松が中心だったのですが、ヒノキ・イチョウ・さかき・モミ・しい・杉・松・桜・モチノキ・珍しいものは桐なども献木して下さいました。氏子さんたちご自身で運んでいらして、総代の方々がどこに植えるかを相談して決め、氏子さんの手で植栽して下さったそうです。

お金ではなく、自分たちで持ち運び、そして自分たちで植えるというのは、大変なことでしたらと思います。そしてそのときに桜も植

えて下さいました。

■現在、北参道の桜並木は閉鎖中

境内にはたくさんの桜があります。以前は、北参道の桜並木を開放していたのですが、周りの木が大きくなってきた影響からか、桜が弱って花が咲かなくなってきたので、昨年から開放をあきらめて閉鎖しています。桜のためだけに周りの木を切るわけにもいかないので、状況を見ている状態なのですが、テングスという病気にもかかり、その処置をしました。それで少し回復してくれれば、と期待しています。枯れた木もあり、伐採して若い苗木を植えたりもしているのですが、なかなか育たず、まだ見通しが見つからないですね。元気になってくれて、また桜並木を開放できたら、と思っています。



▲井草八幡宮参道前

その桜並木は、昭和4年に、それまで東と西しかなかった参道を、北方向にも設けようということになり、北参道を作る際に作られました。大正4年と昭和4年にそれぞれ植えられ、現在も残っている主なものは、桜並木の出口

にある桜や、東参道の入り口の桜などです。ソメイヨシノの樹齢はあまり長くないと聞くと、よく長生きをしていると思います。よく目立ってきれいなのは、やはり北参道入り口と東参道入り口、あとは公道沿いにも目立たぬが桜の木が数本あり、なんともいぬ風情があります。緑の中に桜が見られるというのは美しいですね。

■地域の方々と共に守る「鎮守の森」

桜の時期には、善福寺川緑地などで行われるようなぎやかな花見とは違い、お参りの途中で眺めながら来られる方や、青梅街道を通る際に少し足を止めて見られる方が中心の、静かなお花見。豪華ではありませんが、常緑を背景に咲く桜もまた、きれいなものです。



▲井草八幡宮境内図

近隣の方々のご理解がある中で、境内の緑を維持できていると、いつも思います。境内は、一切手をつけずに「管理しない管理」として自生させています。神域は、神様が遊ばれる場所と考えられており、その場所を住みやすく保つ、という思いがあるためなのですが、境内から出て枝が張り出したりするとご迷惑になりますので、そちらはちよくちよく切ったりしております。境内の緑は、温暖化の影響からでしょうか、ここ10年ほど特に成長

↘

が速まっているような気がしますね。

雪が降ったりするとその重みで枝が折れ、道路をふさいでしまったりすると、またご迷惑をおかけしますので、特に道路側は定期的に枝を落として気をつけています。

皆さんが「よい景色を眺めさせてもらって感謝している」と言って下さり、落ち葉を片づけて下さる方もいて、とても感謝しております。

(文：山崎優佳子)